

令和 4 年度ヤングケアラー実態調査結果について**1 調査目的**

区内のヤングケアラーの実態を把握し、現状の分析や今後の支援体制強化を図るため、生活実態や家族の世話の状況等について調査を実施した。

2 調査方法と回収状況

(1) 調査対象

①区立小学校・義務教育学校（前期課程）に在籍する小学 4～6 年生の全児童
12,525 人を対象に「ふだんの生活についてのアンケート（小学生）」を実施

②区立中学校及び義務教育学校（後期課程）に在籍する全生徒
8,435 人を対象に「普段の生活についてのアンケート（中学生）」を実施

③区内に住民登録のある高校生等世代（15～18 歳）
11,821 人を対象に「ヤングケアラーに関するアンケート（高校生等世代）」を実施

(2) 調査方法

インターネット調査。①及び②は一人一台端末にて、主に学校の中で児童・生徒が回答。③は郵送にてインターネット回答。

(3) 調査期間

①及び② 令和 5 年 1 月 12 日（木）から 2 月 28 日（火）

③ 令和 5 年 1 月 12 日（木）から 2 月 25 日（土）

(4) 回収状況

	対象者数	回収数	回収率
①ふだんの生活についてのアンケート（小学生）	12,525 人	11,323 人	90.4%
②普段の生活についてのアンケート（中学生）	8,435 人	6,825 人	80.9%
③ヤングケアラーに関するアンケート（高校生等世代）	11,821 人	2,532 人	21.4%

3 調査結果（江東区ヤングケアラー実態調査報告書（概要版）を参照）

主な調査結果

(1) 家族のお世話をしているこどもの割合とお世話を必要としている家族

- ・小学6年生で15.2%、中学2年生で14.5%、高校2年生世代で3.5%が家族のお世話をしていると回答した。小中学生では、国の調査結果よりも多い割合であった。

- ・お世話をしている家族は「きょうだい」が最も多く、次に「母」が多い。

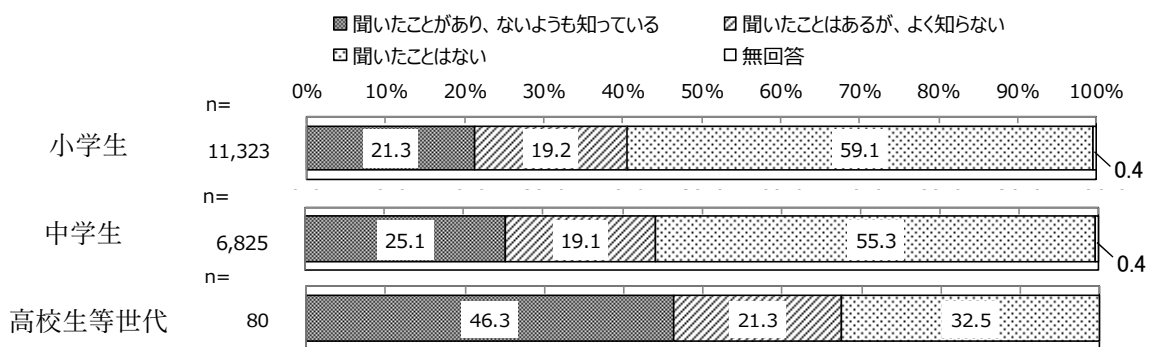
(2) 希望する相談方法

年齢に関わらず、直接会って相談することを希望する割合が最も高く、5割から6割であった。

(3) ヤングケアラーの認知度

(江東区ヤングケアラー実態調査報告書 42・110・168 頁を参照)

「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあり、内容も知っているとは回答した小中学生は2割台であった。



4 令和5年度の取り組み

ヤングケアラーを早期に発見し適切な支援へつなげるため、調査結果を踏まえ、以下の取り組みを実施していく。

(1) 支援体制の構築

要保護児童対策地域協議会の枠組みを活用し、関係機関が連携してこどもたちに寄り添い、きめ細かな支援・見守りを実施していく。

(2) 関係機関の対応力強化

ヤングケアラー及びその家族を支える関係機関の対応力の向上や支援ネットワーク強化のため、区内各所で研修を実施する。

(3) 普及啓発・周知

- ・地域社会全体でヤングケアラー及びその家族を支えるため、正しい理解の普及と理解促進を目的としたシンポジウム（区民向け）を開催する。

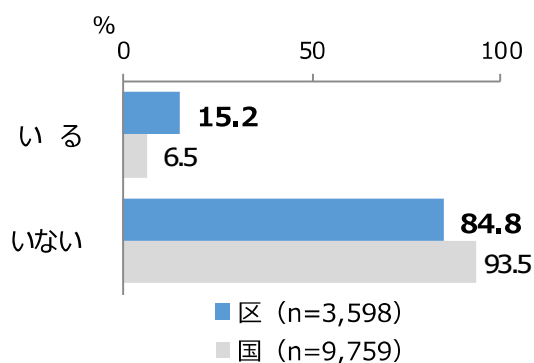
- ・こども自身の理解を促し、一人で悩まず相談できるようにするためのリーフレットを作成し、区立小・中学校の全児童・生徒へ配布する。

近年、社会問題として認識されているヤングケアラーについて、本区の実態を把握し、支援体制強化の基礎資料とするため、区内の実態調査を行いました。※調査概要は最終ページをご覧ください。

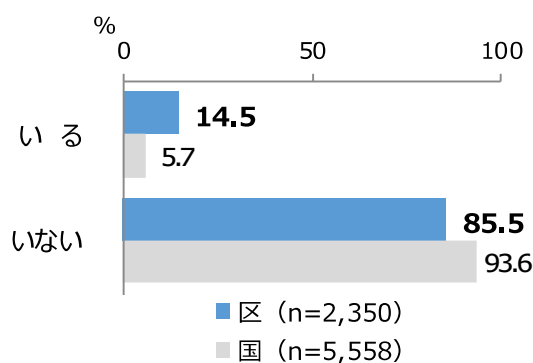
お世話をしている家族の有無

家族のお世話をしている割合は、小学6年生で15.2%、
中学2年生で14.5%、高校2年生世代で3.5%

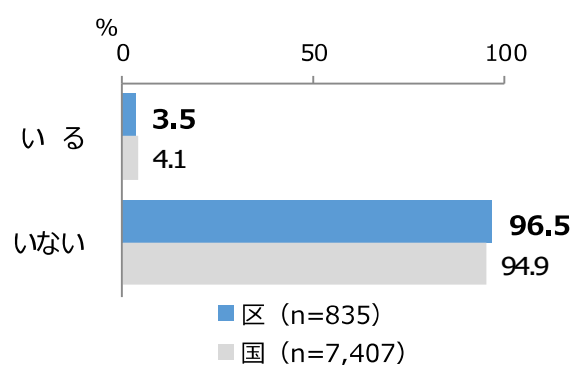
■ 小学6年生



■ 中学2年生



■ 高校2年生世代



- 家族のお世話をしている割合は、小学6年生で15.2%、中学2年生で14.5%、高校2年生世代で3.5%となっている。
- 国の調査結果と比較すると、家族のお世話をしている割合は、小学6年生で区が国よりも8.7ポイント、中学2年生で区が国よりも8.8ポイント高くなっている。高校2年生世代では、大きな差異はみられなかった。

※小学6年生の国の結果は、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和4年3月）、中学2年生、高校2年生世代の国の結果は、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）にて公表されている結果である。



国の調査は、本調査と調査対象者の抽出方法や調査の実施時期、調査の依頼方法等が異なるため、その点を留意した上で比較する必要がある。

ヤングケアラーの実態について

P2~5へ➡

ヤングケアラーの特徴について

P6~7へ➡

ヤングケアラーが求めていること

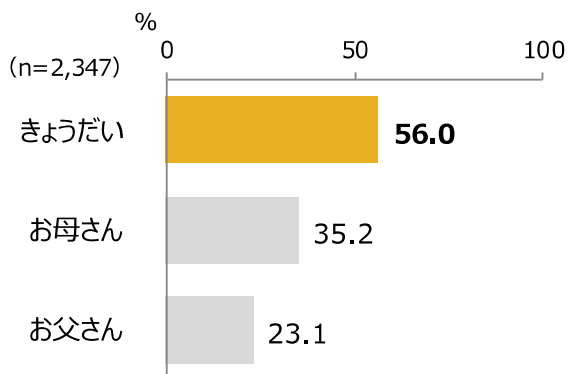
P8へ➡

1 | ヤングケアラーの実態について

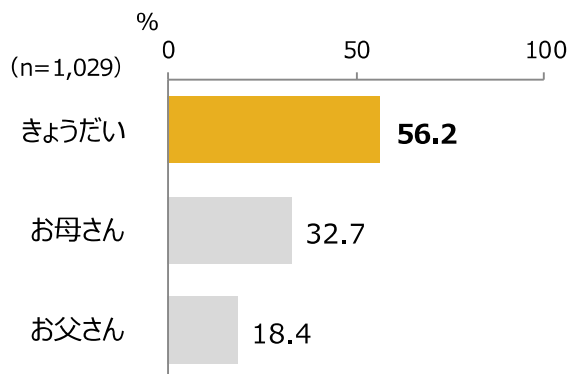
お世話を必要
としている家族
【上位3項目】

お世話を必要としている家族は、
年齢に関わらず「きょうだい」が多い

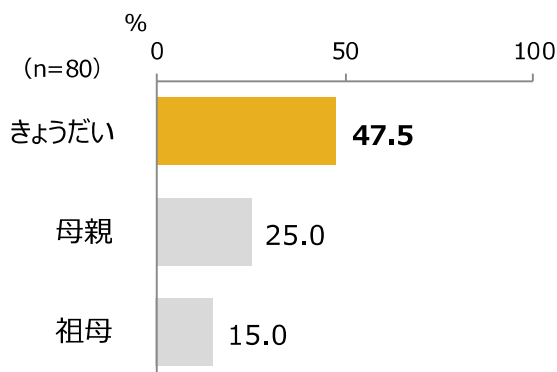
小学生



中学生



高校生等世代

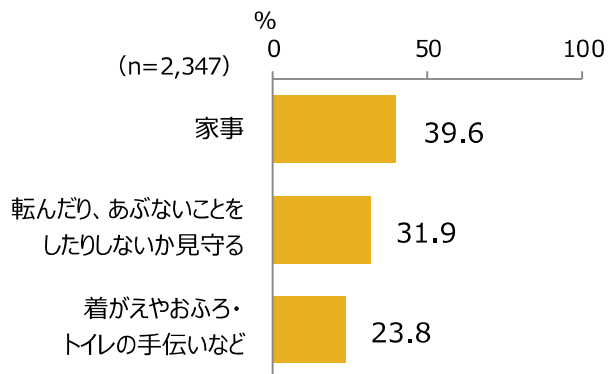


- お世話を必要としている家族（上位3項目）は、年齢に関わらず「きょうだい」が最も高く、小学生で56.0%、中学生で56.2%、高校生等世代で47.5%となっている。
- 小中学生は、「きょうだい」に次いで「お母さん」、「お父さん」が高くなっているが、高校生等世代では、「母親」、「祖母」が高くなっている。

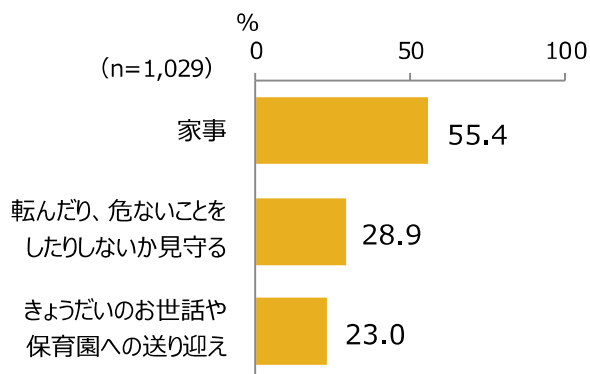
お世話の内容
【上位3項目】

お世話の内容は、年齢に関わらず「家事」が多く、
きょうだいのお世話に関する内容も多い

小学生

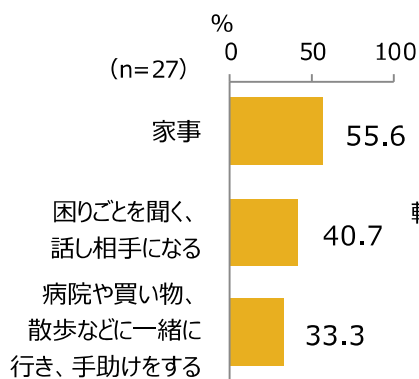


中学生

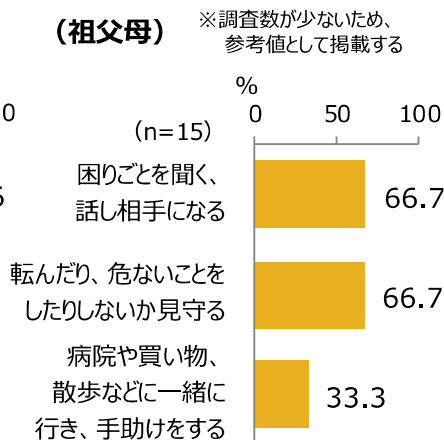


高校生等世代

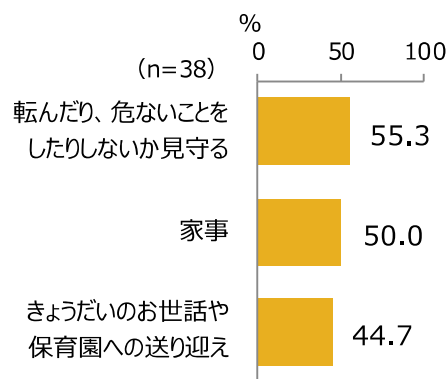
(父母)



(祖父母)



(きょうだい)



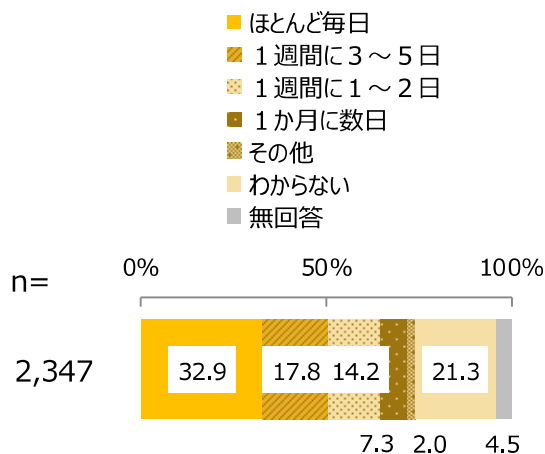
- お世話の内容（上位3項目）は、小中学生で「家事」が最も高くなっている。高校生等世代においても、父母のお世話の内容では、「家事」が最も高く、きょうだいのお世話の内容でも「家事」が二番目に高くなっている。
- 年齢に関わらず、お世話を必要としている家族は「きょうだい」が多いことから、お世話の内容においても、「転んだり、あぶないことをしたりしないか見守る」、「きょうだいのお世話や保育園への送り迎え」など、きょうだいのお世話に関する内容が高くなっている。

1 | ヤングケアラーの実態について

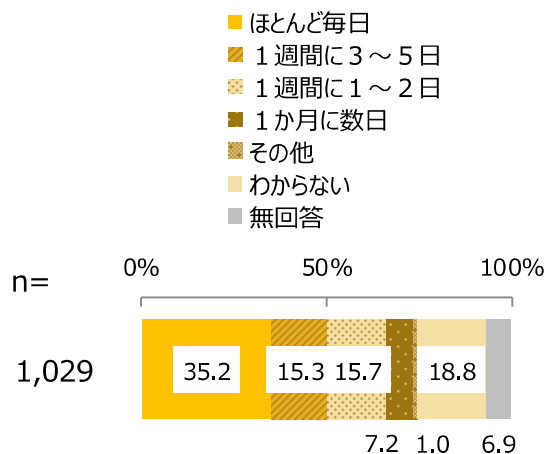
お世話の頻度

お世話の頻度は、年齢に関わらず「ほとんど毎日」が多い

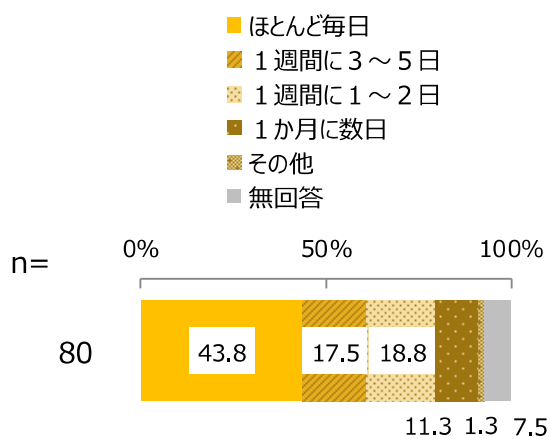
小学生



中学生



高校生等世代

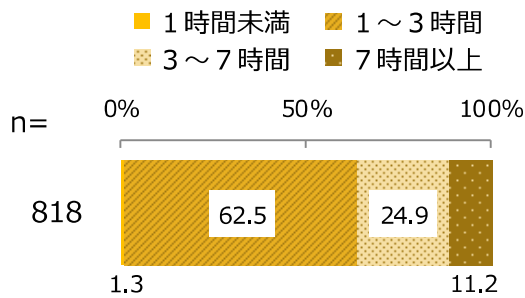


- お世話の頻度は、年齢に関わらず「ほとんど毎日」が最も高く、小学生で 32.9%、中学生で 35.2%、高校生等世代で 43.8%となっている。

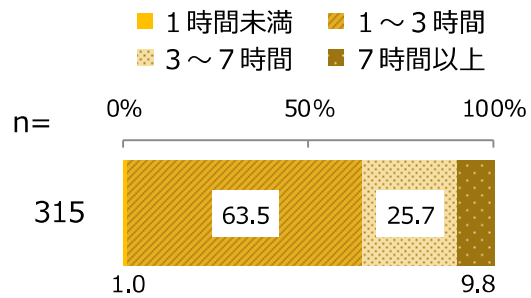
1日あたりに
お世話に
費やす時間

1日あたりにお世話に費やす時間は、
年齢に関わらず3時間未満が6割を占めている

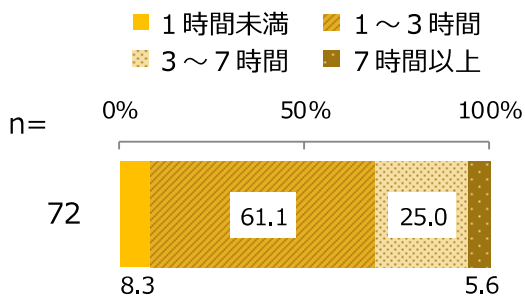
小学生



中学生



高校生等世代 (平日の回答結果を掲載)

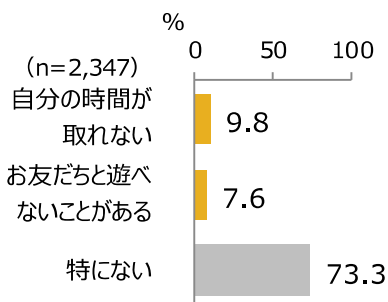


- 1日あたりにお世話に費やす時間は、年齢に関わらず「1時間未満」、「1～3時間」の合計でいずれも60%台となっている。

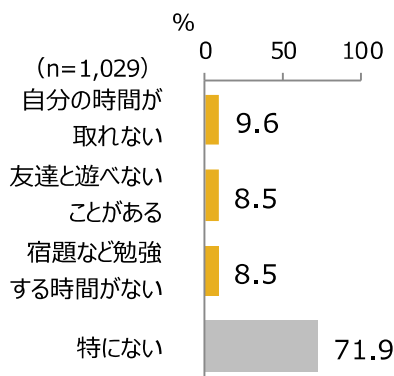
お世話による制約
【上位2項目+「特にない」】

お世話による制約は、年齢に関わらず「特にない」
が最も多いが、困り事としては「自分の時間がと
れない」、「友達と遊べないことがある」が多い

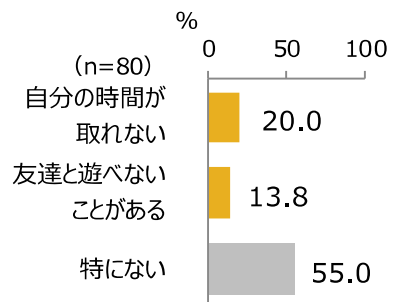
小学生



中学生



高校生等世代



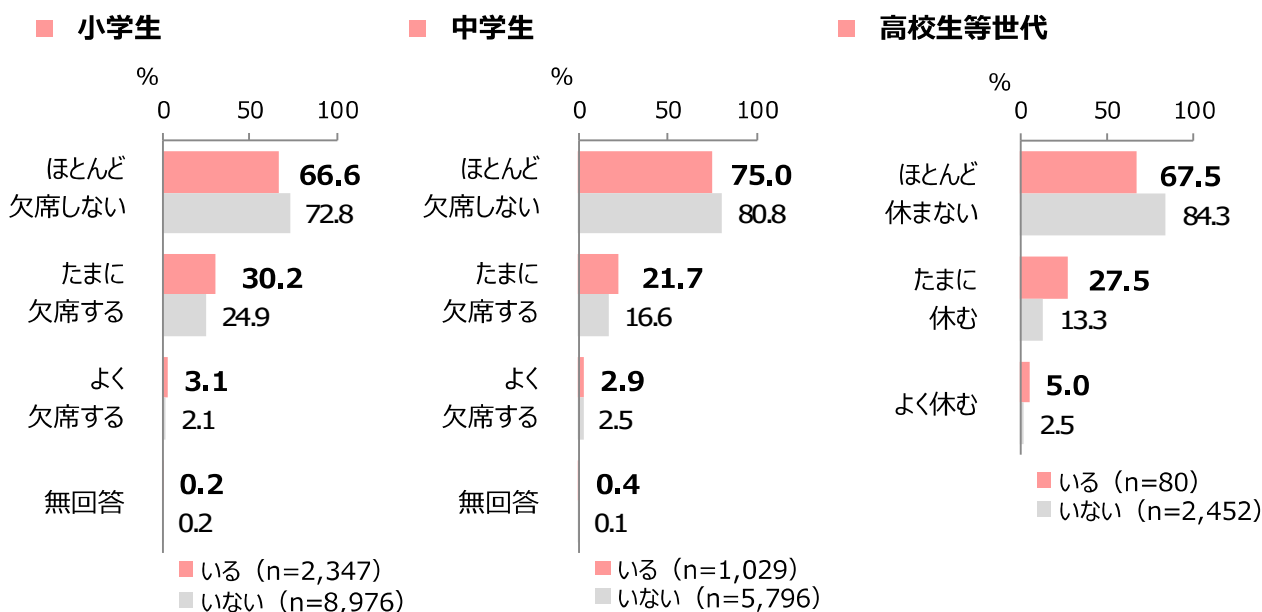
- お世話による制約は、年齢に関わらず「特にない」が最も高くなっているが、具体的な内容では、「自分の時間がとれない」、「友達と遊べないことがある」が高くなっている。

2 | ヤングケアラーの特徴について

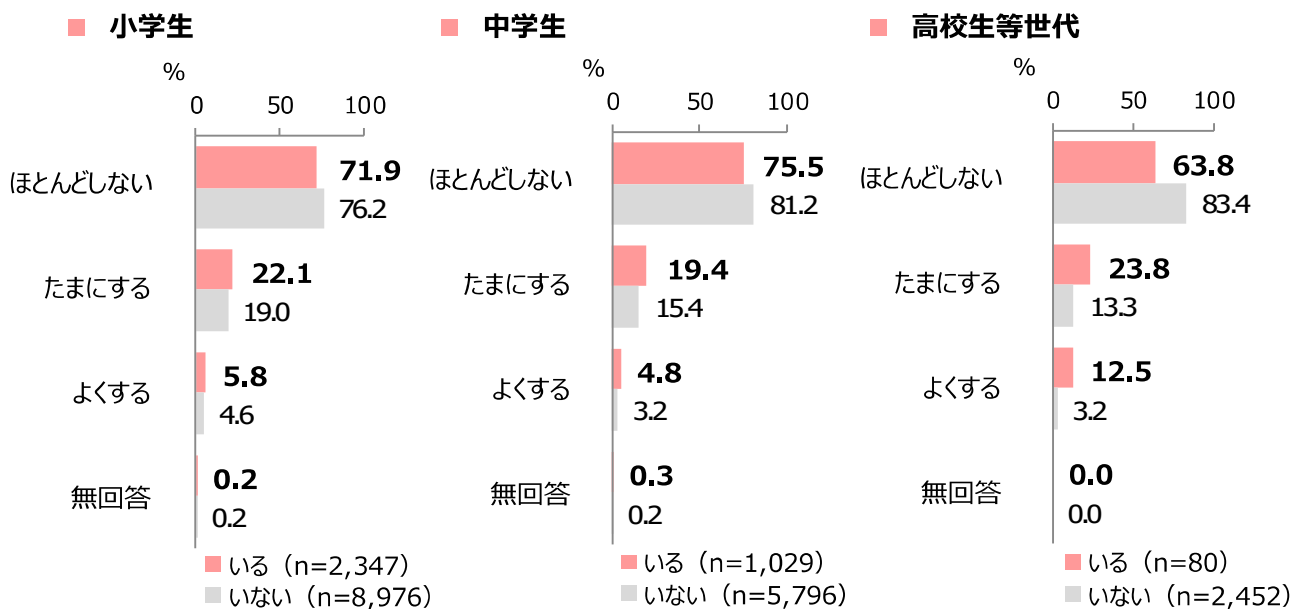
通学・通勤の状況

家族のお世話をしている人ほど、欠席・休みや遅刻・早退をする傾向がみられる

【出欠状況】



【遅刻・早退の状況】

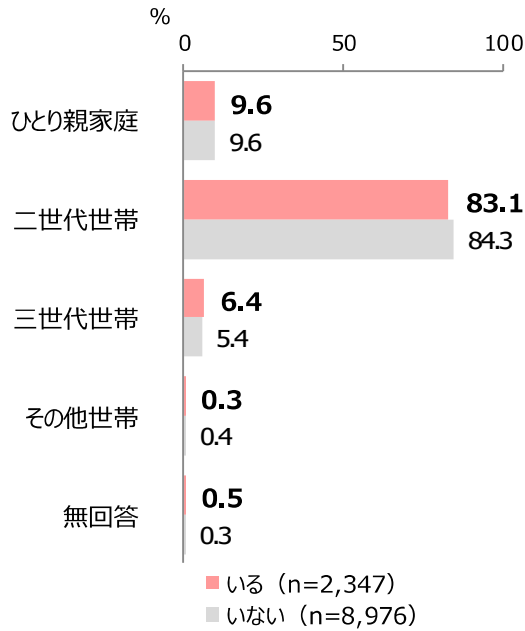


- 出欠状況をお世話をしている家族の有無別でみると、年齢に関わらず「ほとんど欠席しない（休まない）」ではお世話をしている家族が「いる」「いない」よりも低く、「たまに欠席する（休む）」ではお世話をしている家族が「いる」「いない」よりも高くなっている。
- 遅刻・早退の状況をお世話をしている家族の有無別でみると、年齢に関わらず「ほとんどしない」ではお世話をしている家族が「いる」「いない」よりも低く、「たまにする」ではお世話をしている家族が「いる」「いない」よりも高くなっている。

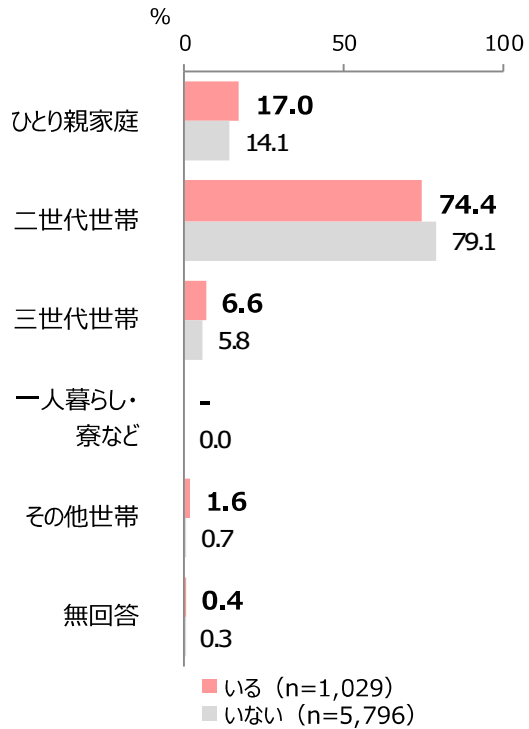
家族構成

家族構成は、小中学生でお世話をしている家族の有無による差はみられないが、高校生等世代では差がみられる

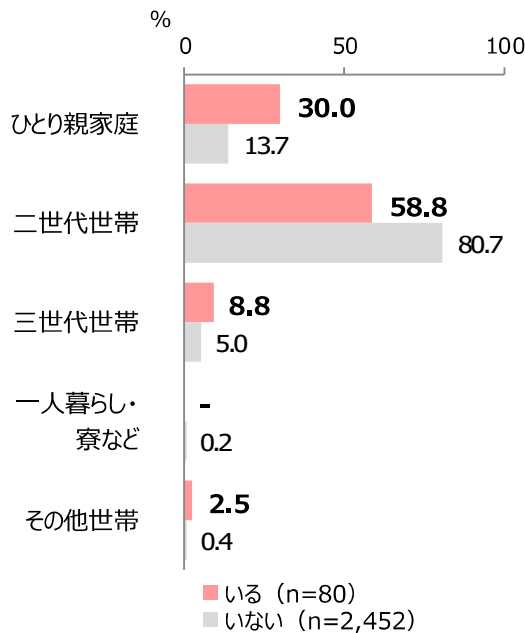
小学生



中学生



高校生等世代

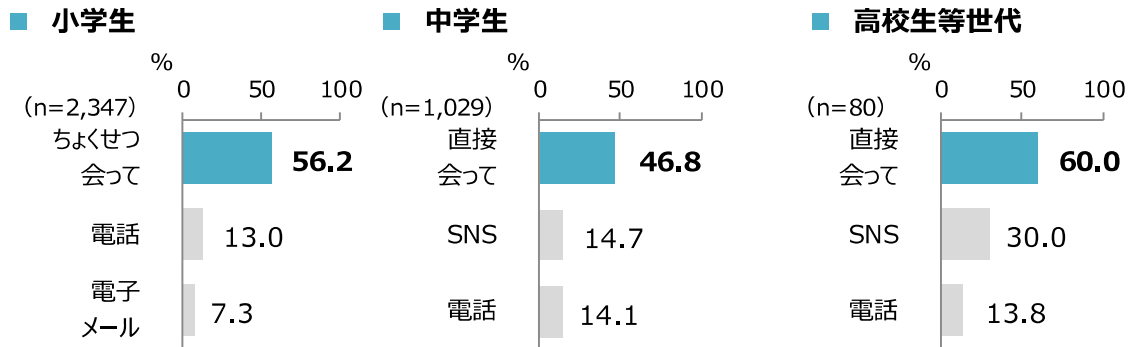


- 家族構成をお世話をしている家族の有無でみると、小中学生で大きな差異はみられない。
- 高校生等世代では、「ひとり親家庭」はお世話をしている家族が「いる」が「いない」よりも16.3ポイント高く、「二世帯世帯」はお世話をしている家族が「いない」が「いる」よりも21.9ポイント高くなっている。

3 | ヤングケアラーが求めていること

希望する 相談方法 【上位3項目】

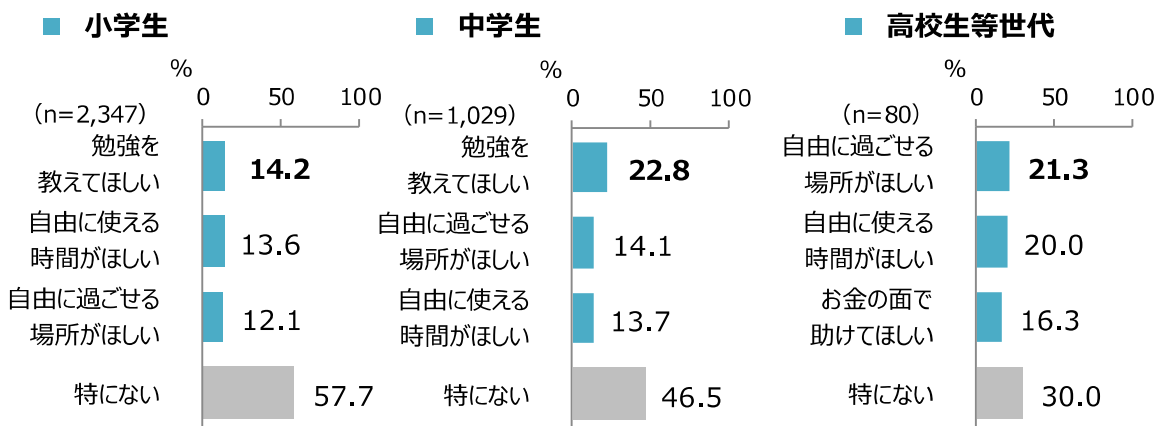
希望する相談方法は、
年齢に関わらず「直接会って」が多い



- 希望する相談方法は、年齢に関わらず「直接会って」が最も高くなっている。

学校や大人にして もらいたいこと 【上位3項目+「特にない」】

学校や大人にしてもらいたいことは、
「勉強を教えてほしい」、「自由に使える時間がほ
しい」、「自由に過ごせる場所がほしい」が多い



- 学校や大人にしてもらいたいことは、年齢に関わらず「特にない」が最も高くなっているが、具体的な内容では、小中学生で「勉強を教えてほしい」が最も高くなっている。
- 年齢に関わらず、「自由に使える時間がほしい」、「自由に過ごせる場所がほしい」も高くなっている。

【調査概要】

- 調査対象者 ① 区立小学校および義務教育学校（前期課程）に在籍する小学4～6年生の児童 12,525人
② 区立中学校および義務教育学校（後期課程）に在籍する全生徒 8,435人
③ 区内に住民登録のある高校生等（15～18歳） 11,821人
- 調査期間 ①② 令和5年1月12日（木）から2月28日（火） ③ 令和5年1月12日（木）から2月25日（土）
- 調査方法 ①② 回答入力フォームのURLを学校を通して配付。区貸与の1人1台端末を活用したWeb上での回答を基本とし、学級時間等を利用して調査を実施
③ 回答入力フォームのURLを郵送、Web上での回答を基本とし、調査を実施
- 回収件数（回収率） ① 11,323件（90.4%） ② 6,825件（80.9%） ③ 2,532件（21.4%）

江東区ヤングケアラー実態調査 報告書 概要版

令和5年3月

編集発行 江東区教育委員会事務局 庶務課
江東区東陽四丁目1番28号

電話（3647）9111（大代表）